

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890700040		
法人名	株式会社 しもふさの郷		
事業所名	グループホームくわの実	ユニット名(くわの実)	
所在地	茨城県結城市大字武井1244番地6		
自己評価作成日	平成29年12月29日	評価結果市町村受理日	平成30年 3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890700040-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 茨城県社会福祉協議会
所在地	水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内
訪問調査日	平成30年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

澄んだ空気と森林の中に佇む生活環境のもと、入居者の心身の状況を踏まえ、その方の能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、一人一人の個性に合わせた必要な援助を行なっている。また、ボランティアの受け入れや外出ツアーなど外部との交流を積極的に推進している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は田園に囲まれた静かな環境で、利用者は穏やかに過ごすことができる。経営理念の一つの「その方の全てを受容し、尊厳をお守りします」を念頭に「してあげる」から「一緒暮らす」という意識で職員は日々利用者の支援に努めている。同一法人の有料老人ホーム・通所介護・ショートステイが隣接していることから、様々な委員会活動や研修、ボランティアの受入れ、災害対策、「しもふさの郷感謝祭」の開催等、事業者で連携をとり運営している。協力医療機関の訪問診療は月2回、訪問歯科は毎週、必要に応じて専門科への受診の支援にて利用者の健康管理を図ることで利用者や家族の安心につながっている。職員はAEDの操作の研修を受けるなど、緊急時の対応に備えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業者の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームくわの実の基本理念を事業所内の職員が見やすい場所に掲示し、周知している。また、機会あるごとに管理者が分かりやすく職員に説明している。	設立以降、必要に応じて経営者や管理者、職員と共に相談し変更をしている。職員には随時、管理者が個別に分かり易く説明し、意識向上に努めているとともに、フロア会議にて唱和している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に散歩、買い物等の外出を通して、地域住民とのふれあいの機会を設けている。また、ボランティアの受け入れや花見などの季節行事に積極的に参加し交流を図るなど、地域住民との交流を深めている。	年1回信用金庫の職員がボランティアとして清掃活動に来ている。事業所の行事や感謝祭に、地域住民が参加し、模擬店や和太鼓の演奏、保育園児の歌の発表などで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社全体を通して、日常的に施設行事等の参加者や利用者家族に対し、認知症への理解や支援方法を教示している。また、更生保護事業や特別支援学校の実習生の受け入れなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、利用者家族、地域住民代表出席の下、入居状況、活動状況等の報告を行なっている。また、会議において出た意見や要望をサービス提供に反映するよう努めている。	運営推進会議は年6回開催できない状況が続いている。家族等へは通知を出しているが出席は得られていない。	開催できない原因を検討し、2ヶ月に1回又は年6回開催できるよう工夫することを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、市に訪問時利用者の活動状況を報告している。また、運営推進会議には、必ず市職員が参加しており、情報交換を密にしている。その他施設行事の感謝祭には、市の Mascot キャラクターを導入するなど、市のPR活動に貢献している。	管理者は要介護更新申請時等に、市の窓口を訪問したり、市内6ヶ所の事業所による連絡協議会にて市の職員との情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は、身体拘束せずに行なう3つのケアを十分に理解し、身体拘束をしない・させない・より良いケアに努めている。また、会社全体では「事故防止・身体拘束・褥瘡委員会」を設置しており、身体拘束をしない体制づくりに努めている。	身体拘束排除に関するマニュアルがあり、日常の業務の中で、身体拘束に当たる行為について、管理者が職員に啓発を行っている。会社全体で各月に「事故防止・身体拘束・褥瘡委員会」を開催し「身体拘束をしない・させない・より良いケア」に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法や身体拘束廃止に向けた取り組みを踏まえ、職員に内部、外部研修を問わず積極的に参加するよう促している。また、朝礼時に利用者の対応について職員同士で話し合い、虐待が起きないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度を必要とする利用者がある場合には、行政、家族等と協議を進めるように努めている。また、権利擁護に関する研修会がある場合には、職員に積極的に参加するよう促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申込や契約時に、利用者及び家族等に対し、パンフレットや重要事項説明書に基づき説明を行なうとともに、その他の疑問等の相談にも応じている。また、介護報酬等の改定があった場合には、その都度通知文を発送している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市、利用者、家族等から意見が出た場合には、些細なことでも出来る限り事業運営に反映している。また、意見箱を設置するなど意見が出やすい環境に努めている。	玄関に意見箱を設置しているほか、日頃の面会時や電話のときに、家族等の意見や要望を聴いて支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開設者及び管理者は、常日頃から職員と意見交換を図っており、職員から出た意見は尊重し、事業運営に活かすよう努めている。	管理者は日頃から話しやすい雰囲気作りに努め、いつでも話を聴いている。職員会議時にも意見を聴き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設者は、管理者及び職員に対し、必要に応じ随時面接し、職員のメンタルヘルスに注意を払っている。また、夜勤者には年2回の健康診断を実施しており、職員の健康管理にも注意を払っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	当社では、職員全体の技術・知識の向上を目指し、研修会や勉強会を企画運営する「研修委員会」を設置し、職員のスキルアップに努めている。また、資格取得を希望する者には、研修費を会社が負担するなど、金銭面でのバックアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の地域密着型サービス事業所の職員で構成する連絡会に管理者、職員が出席し意見交換を図り交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は、生活環境の変化により、心身状態が不安定のため、利用者の不安なことや要求等に特に傾聴し、コミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や契約時から、利用者の心身状況や要望等を家族から聞き取り、それに合ったケアに努めるとともに、ご家族との連絡を密にし信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族等から利用者の不安なことなどの心理状況、暴言などの行動状況を聞き取り、また、管理者が、認知症の行動・心理症状が起こる性格・価値観などの要因を把握し、職員が共通認識をもってその人にあったケアに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思と人格を尊重し、その人の立場に立ったサービスを提供するとともに、利用者職員が一体となって共同生活の場の環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者にとって家族は大切な存在であるので、家族との面会や外出の機会などふれあいの場を提供している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所が途切れないよう、外出の機会を設けているが、馴染みの人がグループホームに訪ねてくることは、ほとんどない。	本人や家族等から馴染みの関係を聞き取り、職員間で周知して関係の継続に努めている。馴染みの店に買い物に行ったり、家族等と外出できるよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内での利用者同士の関わりは、共同生活するうえで、最も大切であり、カラオケやゲームなどのレクリエーションなどで交流を深めている。また、散歩などで車イスを職員と一緒に押すなど利用者同士の関係を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居され他の施設に移られても、必要に応じ本人及び家族等のフォローアップに努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族等の意向を把握し、その意向に沿って計画作成担当者が作成するケアプランに沿ってサービスを提供している。	利用者の思いや意向は、日頃の関わりの中での会話や表情、仕草などから読み取り、ユニット会議で共有し、介護計画書等に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等から利用者の不安なことなどの心理状況、暴言などの行動状況を聞き取り、また、管理者が、認知症の行動・心理症状が起こる性格・価値観などの要因を把握し、職員が共通認識をもってその人にあったケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者本人のケアプランに基づき、その人の心身の状態に合ったケアを職員が共通認識を持って対応するよう機会あるごとに指導している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を定期的に行い、本人、家族、職員との意見交換を行い、医療関係者の意見を参考にしながら、適宜ケアプランの見直しを行なっている。	家族等や利用者の意向を反映して作成し、フロア会議で6ヶ月ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議で話し合い、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別記録を作成し、申し送り等で職員に伝達し、情報を共有し、利用者本位のサービスが途切れないように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当社では、グループホームに併設して、有料老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、居宅支援事業所を有しており、利用者の個別ニーズに柔軟に対応できる体制が構築されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ケアプランの作成にあたっては、利用者が今まで培ってきた地域資源を把握し、安心して暮らして行けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当社関連の、しもふさクリニック(歯科)・みわの郷クリニック(内科)により、定期的な健康診断の実施や訪問診療など医療体制は充実している。また、専門性及び緊急性のある場合には、近隣の病院等との連携も図られている。	契約時に、利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能であることを説明している。かかりつけ医の受診は、職員が付き添っている。協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設の計画作成担当者は、看護師であり、看護医療体制は充実している。利用者が適切に医療を受けられるよう管理し、支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院又は退院する場合には、ソーシャルワーカー及び医師との情報交換を密にして、関係づくり努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に備え、早い段階から説明を行い、かかりつけ医、家族との連携を図るよう努めている。また、看取りに関するマニュアルを整備しており、職員に周知している。	重要事項説明書の中で、看取りの体制について説明するとともに、看取り介護に関する指針で詳しく説明し、同意を得ている。看護職員による研修が随時行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生・緊急時の対応マニュアルが整備されている。定期的に職員に周知し、緊急時に混乱が生じないように教育している。当施設にAEDが備え付けられており、市が主催する研修会に職員が参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については、計画的な防災訓練と設備点検を行い、利用者の安全確保に努めている。また、地域との協力体制の観点から、地元消防団の団員に視察していただき、施設内の設備等の説明を行なっている。	年2回の避難訓練が実施されていない。訓練を行った後は反省会を行っているが、記録が残されていない。備蓄品は、隣接する有料老人ホームにて一括保管されているが、一部の職員しか把握していない。	年2回の避難訓練の実施と、反省会を行い、記録に残すことを期待する。職員全員で備蓄品を把握することの出来る工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、利用者には、敬意を表して、きちんと姓で呼ぶよう心がけている。同姓の利用者には名前で呼ぶこともあるが、利用者の誇りを損ねないよう言葉遣いに注意している。また、個人情報に関する同意書を契約時に受領している。	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。フロア会議にて随時研修を行い、意識とサービスの向上に努めている。個人情報に関する同意書がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者から、家族に電話したいとの要望は、その都度対応している。また、買い物ツアーなどで出かけたときは、本人に支払わせるなど自己決定させるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の気分を損なわないよう、外出ツアーなどの施設行事があっても、本人の意思を尊重し、居室で過ごされることもあります。また、レクリエーションなどの施設内行事も本人の意思を尊重し実施している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のなかには、お化粧品や髪を整えることが出来ない方もいるので、職員が支援している。また、理美容の受付も毎月行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態、能力に応じ、できるものは職員と一緒に協力しながら行なっている。	中庭で栽培している野菜や果物を収穫し、おやつやの時間等に提供している。食事の準備など出来ることを職員と一緒に行うことで、生き生きと生活ができるようになった利用者もいる。3ヶ月に1回程度、外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮し、本人が嫌いなものでも食べてもらえるよう常に声かけを行なっている。夏場の水分摂取には特に注意し、夜間でも一人一人にあった水分補給を管理者の看護師が管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の手入れが出来ない方は、職員が行なっている。自歯の方は、職員の介助で歯磨きを実施している。また、しもふさクリニック(歯科)の歯科衛生士による口腔ケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状態に応じ、適切な排泄介助とオムツ外しに取り組んでおります。また、職員は利用者の排泄パターンを理解し、適時トイレ誘導を行っている。	排泄チェック表や個人記録から排泄パターンを把握し、さりげない声かけにより誘導をして、できるだけトイレで排泄が出来るよう支援をしている。トイレは車いすで入れる広さがあり、手摺を設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の水分摂取量及び排泄回数を記録に取り、常に注意を払っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、各自希望の時間帯を考慮し実施している。また、一人で入浴を希望される方については、次の人を脱衣場に入れれないなど個々に応じた支援を行なっている。	入浴は、利用者の希望に沿って個々に対応している。入浴を好まない利用者には、声をかける職員や時間を替えるなどして入浴を促したり、場合によっては清拭等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身状態も一人一人違っているため、安静の必要性も当然違ってくるため、個々に対応している。また、就寝時間も日課表の時間内に希望される時間帯にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、当施設の看護師が、その使用方法、取り違えなどの誤使用を防止するなどの方策など、職員に常に周知している。特に誤薬防止については、利用者への声かけなど、本人確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設周辺の草取りや、お花の水やり、小鳥やうさぎに餌を与えることを日課としている利用者もあり、日々楽しく過ごされている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、外食ツアー、お花見観賞など定期的に外出機会を設けている。また、併設の有料老人ホームでヤギを飼育しているので、天気の良い日には散歩がてら出かけている。	天気の良い日には近隣を散歩し、住民と挨拶を交したり、買い物を楽しんだりしている。年間行事計画を立てて、併設の有料老人ホームの車いす対応車輛を借りて、外出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物ツアーでは、家族から預かっているお金であることを伝え、支払いはなるべく本人に行なわせ、金銭感覚を忘れないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話する場合には、ホール内にある電話で本人が直接掛けるよう支援している。手紙については、本人に書かせているが、宛先が不十分のため、直接家族に渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内で毎月手作りカレンダーを利用者様と職員が一緒になって作成し、掲示し季節感が漂うようにしている。また、各種行事等に参加した写真を貼るなど癒しの空間づくりに努めている。	玄関では、感染と乾燥予防のため、ストーブの上に鍋をかけて加湿をしている。廊下はソファが置かれて、利用者が寛いだり休むことができるようになっている。居間兼食堂には手作りのカレンダーや水仙の花、雛人形が飾られており、水槽では熱帯魚を、中庭ではうさぎやインコを飼育している。日当たりのよい談話室にはソファやテーブル、観葉植物が置かれ、面会時や庭先での日光浴に使用して利用者の憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には、常に利用者が集まっており、テレビを観たり、カラオケやゲームなどを楽しんでいる。一人で過ごされる場合には、ホールのソファでくつろいだり、娛樂室で日向ぼっこしたり、一人で居室にいることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、自宅での生活パターンを変えないよう、家族の写真や肘掛椅子など、自由に持ち込んでおります。また、本人、家族の希望により、畳の部屋にするなど心地よい空間に努めている。	居室にはエアコンやベッド、カーテンが備え付けられ、他のものはそれぞれ、利用者が使い慣れたものを持ち込んで使用している。普段使う茶碗や湯のみ、箸なども使い慣れたものを持ち込んで使用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の日常生活をよく観察し、本人が「できること」を見出し、生きがいのある生活が継続できるよう支援している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム くわの実

作成日 平成30年 3月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	開催できない原因を検討し、2ヶ月に1回又は年6回開催できるよう工夫することを期待する。	2ヶ月に1回又は年6回開催できるように年次計画を立て実践するよう努力する。	防災訓練や感謝祭の開催時期に合わせ運営推進会議を開催する。	12ヶ月
2	35	年2回の避難訓練の実施と、反省会を行い、記録に残すことを期待する。職員全員で備蓄品を把握することの出来る工夫を期待する。	消防署立会いの訓練と自主訓練をそれぞれ1回開催する。備蓄品一覧表を作成し、管理する。	①当社の防災委員会で訓練の検証を行ない記録を残し、次回開催時に活かすよう努力する。 ②備蓄品一覧表により、職員に周知する。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。